

## 令和5年度 大阪成蹊女子高等学校 学校経営評価

### 1 めざす学校像

- ① 本学園の建学の精神である「桃李不言下自成蹊」、「忠恕」の精神に基づき、「思いやりがあり、誠を尽くし人の立場にたって考え行動できる人材」、また社会に求められる「自立し、品格ある女性」を育成する学校（女子教育の推進）
- ② 女子に特化したキャリア教育を教育の柱として、女性として自主的に生きる力を育み、人間力を高めるために必要な資質や能力を育てる学校（キャリア教育の推進と人間力の育成）
- ③ グローバル社会に求められる多文化共生のマインドと必要な能力を育むとともに、確かな学力と「使える英語力」の向上を図る学校（国際教育・英語教育の推進）
- ④ 普通科の「特進コース」、「幼児教育コース」、「スポーツコース」、「総合キャリアコース」、「音楽コース」、「看護医療進学コース」と美術科の「アート・イラスト・アニメーションコース」の7コース（令和6年度からは「英語コース」を加えた8コース）の教育内容を高め、生徒のニーズに応える生徒の夢を実現できる学校（多様なコースで夢を実現）
- ⑤ 共生の観点を基本として、他者を敬い、自己を肯定できる豊かな人権感覚を育むとともに、いじめのない安全で安心な学校（人権教育の推進、安全で安心な学校）

### 2 中期的目標

#### 1. 学力向上と学校教育力の強化

- ① コースの学びの充実による人間力の向上
  - ・各コースの特性に応じた様々な教育活動、コース行事、キャリア教育等を通じて、社会で求められる人間力の向上を図る。
- ② 「主体的、対話的で深い学び」の実践による学力向上
  - ・「基礎的・基本的な知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」を育成するため、「主体的、対話的で深い学び」の実現を図る。そのためにアクティブラーニングの手法等も取り入れながら、授業改善の取り組みを進める。
- ③ グローバル教育の推進とユネスコ活動
  - ・With コロナの状況に適応した海外修学旅行や海外研修などを実施し、生徒が多文化に触れる機会をを通してグローバル教育を推進していく。またユネスコスクール活動の更なる充実をめざす。
- ④ 使える英語教育の推進
  - ・4 技能を中心に、英語教育の充実を学園の教育方針と合わせて強化する。とりわけ、リスニング・スピーキングを重視する「使える英語」の育成を進める。令和6年度に新設する「英語コース」がこの牽引役を務める。
- ⑤ 各種検定の合格をめざす実学教育の充実
  - ・生徒の達成感を育む漢字検定・GTEC(英語検定)・秘書検定等の合格率や到達度の成果を高める。
- ⑥ ICT機器の活用
  - ・全員が使用するiPadの活用方法について研究を進め、iPadが生徒の「学びの道具」として効果的なものとなるよう取り組みを進める。この他、全教室に設置したモニター、ICT機器を活用した学習効果の高い授業を工夫する。

#### 2. 円滑な学校運営と安全安心な学校づくり

- ① 募集広報活動の充実
  - ・中学生の大幅減少や私立高校の環境の変化に関わらず、常に生徒が集まる魅力的な学校をめざす。学校力の向上と募集広報活動の強化を両輪とした学校経営を推進する。
- ② 内部進学を増大と進路指導の充実
  - ・生徒の多様な進路選択を尊重しつつ、学園全体の発展を見据えて、併設大学・短大への内部進学者の確保に全力を挙げて取り組む。内部進学率 60%を目標にする。一方で、外部進学をめざす生徒へのサポートをさらに充実させ、全生徒の進路実現に全力を挙げて取り組む。
- ③ 生活指導の強化と自尊感情の醸成
  - ・全教職員の共通理解のもと、全教職員による人権をベースとした生活指導(服装指導・頭髪指導等及び多様化する生徒課題に係る心のケアを含む)の徹底を図る。特に、生徒の自尊感情を醸成する「成蹊 pride」の趣旨を生徒・教職員で共有し、その確立をめざす。
- ④ いじめ防止と建学の精神を踏まえた教育の推進
  - ・本校の「学校いじめ防止基本方針」を踏まえ、本校でのいじめ対策について全教職員で共通理解を図り、早期対応によりいじめのない学校をめざす。また、建学の精神に基づき、人間力教育を推進する。
- ⑤ 評価育成制度によるPDCAサイクルの推進と、FD研修の充実
  - ・評価育成制度によるPDCAサイクルを通して、個々の教職員の資質と学校力の向上を図る。特に、FD研修の充実により、教職員の能力・指導力の向上を図る。

### 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

#### 学校評価アンケートの結果と分析

- ・全体の結果を見たときに、最も評価の高い項目は、「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」という項目と「本校の部活動は活発に行われている」という項目で、逆に「生徒会活動に関心を持ち、積極的に生徒会の活動に参加している」という項目は、全体の中で最も低い数値となっている。後者については、生徒会活動に直接参加する人数は限られているので、そのことが影響していると思われる。
- ・学校に対する満足度について見てみると、「この学校に入学して良かったと思う」という項目の数値は、全体的には昨年度と同程度となった。特進コースでは大幅な改善が見られた一方で、看護コースはあまり改善されず、他コースほど高くない。看護コースでは、この春卒業した3年生は昨年度より若干改善はしているが、今年入学した1年生や2年生の評価が想定より低くなった。この要因として、学習や進路指導面への不安や、「思っていたより勉強が厳しい」という感覚がかなりあるのではないかと考えている。外部の看護系大学の入試も意識し、かなり学習に力を入れていることが背景にあると思われる。将来の進路を意識する取り組み等も進めながら、自ら学習に向かう気持ちをさらに高めていきたい。
- ・総合キャリアコースについては、満足度については昨年度より改善しているが、「生徒の興味関心、適正進路に応じた学習科目が多い」という項目の評価はあまり高くない。特に2年生ではこの項目の評価は芳しくない。他コースに比べ、高大連携やキャリア体験等の取組みが最も多いコースであるが、コロナ禍で特に外部との連携が低下してきたことが影響していると思われる。総合的な探究の時間やキャリア教育の面を中心に、この点に対するアプローチを増やしていきたい。
- ・スポーツコースと音楽コースについては、1年生の「この学校に入学して良かったと思う」という項目のポイントがいずれも他の学年より低くなっている。1年生では、まだ専門的な科目よりも、普通科の科目が多いことが1つには影響していると思われる。
- ・保護者については、特進コース、看護コースで他コースより厳しい評価をいただいている。学力保障への要望が強いコースであるだけに、この結果を真摯に受け止めながら、授業だけでなく講習などを通じてしっかりと学習習慣をつけ、学力を高め、保護者の期待に沿えるようさらに努力していく。
- ・美術コースについては、例年同様、比較的高い満足度を示している。

**学校評価委員会からの意見**

▽令和5年度学校評議員

高木 恒夫	公益社団法人日本教育会大阪府支部事務局次長 (元 高槻市立第四中学校長)	山口 智子	(公財)大阪観光局 教育旅行(学校交流)コーディネーター・留学生支援担当 元大阪府立三国丘高等学校校長
元賀 圓治	認可地縁団体相川町会会長、 相川中振興町会会長、 大阪成蹊学園評議員	安達 宏昭	大阪大学大学院薬学研究科特任教授 (株)創品代表取締役、(福)あおば福社会理事、 柴又運輸(株)顧問、(株)dotAqua 代表取締役、(株) HOIST 取締役、(一社)レジリエンスジャパン推 進協議会参与、(一社)日本 MA-T 工業会専務 理事兼事務局長
奥 誠一	令和5年度 PTA 会長		

**【第一回:令和5年7月7日(木)】**

- ・(自分も教員として)授業づくりの中で研究授業をやってきたが、大事なことは、テーマを明確にすること。テーマがはっきりしないと説明の上手な先生の授業がよく見えるだけ。今の授業に求められている協働的な学びをどのように生かすかという視点を持ちながら(研究授業を)やった方がいいと思う。
- ・他校への授業見学もあってもよいのではないかな。私立公立を問わず外部の先生の授業を見るということは一つの意識付けとしてあるのではないかと考える。
- ・自分の子どもから「授業がよくわかる」という言葉が出ていることは親として非常に安心である。他方、子どもはシビアなので「この先生はわかりにくい」などとも言えるのでそのあたりをキャッチするアンケートをやってみることも効果があるのではないかな。
- ・大阪成蹊女子高等学校は私学の経営方針としているんな形のコースを作りながらニーズに合った子どもを幅広く集めることを行っている。その中でそれぞれに満足度をもって将来にむけて頑張ってもらえるように学校として取り組んでいくという言葉があったが同感である。
- ・学力もニーズも幅広い生徒が入学し3年間多様なニーズに応じて教育することは大変だと思うが、しっかり(生徒を)成長させてくれていることは大変ありがたい。
- ・その結果として保護者や生徒から高い評価があり、それをさらに深めていきたいという姿勢が大変好感があるので、ぜひ8コースになっても人気が続くようにがんばってほしい
- ・英語コース新設により、特進コースはさらに特色を出さないといけないのではないかと感じる。
- ・内部進学を含めた進学に対する目標設定という観点から併設校オープンキャンパスを前倒しにされたことは大変良かった。
- ・実際に自分の子どもが世話になって、ものすごくいい学校と感じている。保護者や子どもからも良い話が出てくるので安心している。
- ・地域に長く居るので大阪成蹊学園がいままで歩いてこられたこと、だんだん良くなってきたことも悪い時代のことも知っているしどのような経営状態なのかもわかる。
- ・「相川に成蹊がある」と「成蹊のある相川」では大きく意味が違い、いま高校が取り組んでおられることが良い方向に向かっていると確信している。
- ・この学校に来させてよかった(という保護者や)卒業して良かったと(卒業生が)いう学校であり続けてほしいので評議員として協力できるところは言ってほしい
- ・令和4年度の学校評価の中で厳しい意見があったことを踏まえてそれに対しても真摯に対応していく旨の姿勢が大事である。

**【第二回:令和6年3月12日(火)】**

- ・SNS やインターネットの普及により悪いことはすぐ広がる時代であるが、この評価からは、良くない点が目立っていると感じる。特に生徒評価では生徒会活動については関心がないのか嫌っているのかの評価軸が難しいと思う。関心がないという選択肢を追加するべきかもしれない。
- ・対外的にPR する際にも、負の要因を減らす聞き方があるかもしれないと思う。
- ・去年の特進の評価が厳しかったが、すごく改善されていたのは先生方の努力だと思う。保護者の特進評価がまだ厳しいのは、広報活動や学校の連絡方法に問題があるからかもしれない。
- ・学校評価は前年度に比べて上がっていると思う。なによりも生徒の評価が上がっていることに安心した。
- ・子どもたちの評価が非常に良くなっているので先生方の苦労が数字に現れているのだと思う。
- ・コロナの(完全ではないが)終息により学校行事が行なわれることで一定程度の生徒満足度が上がっているのではないかなと思う。
- ・評価の方法について、企業では NPS(ネットプロモータースコア)のような方法を使い、批判的な評価と高い評価の差を分析することで、将来性を見ると聞いた。このような評価を取り入れるのも大事かなと思う。
- ・大変よく挨拶をするようになった。学年が分からないが、みんな明るく挨拶をしっかりとするようになったと思う。

**3 今年度の取組内容及び自己評価**

目標	今年度の教育目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導の充実と学力向上	① アクティブ・ラーニング(AL)の手法を取り入れた授業の実施	1.グループ活動での活用:グループ発表、討議等、探究活動などでALを適切な授業場面で実施する。 2.課題解決学習 : 一方的な講義形態に終わらず、主体的に生徒同士が協力しながら課題・問題を解決する学習方法を積極的に取り入れる。	学校評価「授業で自分の考えをまとめたり発表したりする機会」の肯定率	学校評価の肯定率が、R3=74%、R4=78%、R5=84%と向上しており、多くの授業でグループワークや生徒による発表が当たり前のように見られるようになった。今後は質の向上にも取り組んでいく。
	②iPad の効果的な活用	1. 授業での iPad の活用:1、2年の授業での活用実績を高める。その中で効果的な活用方法等を教員間で共有することでさらなる活用を図る。	学校評価「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」の肯定率 授業アンケート「授業でiPad やプリントなどをうまく活用している」(新規項目)の肯定率	「教え方に工夫をしている」項目の肯定率は、R3=82%、R4=79%、R5=83%となり、教員による授業の工夫が、一定、生徒にも伝わっている。また「iPad 等を活用している」項目は、R4 前期=84%、後期=86%、R5 前期=83%、後期=86%であり、多くの授業で活用されている。R6 年度から「ロイロ・ノート」も導入し、さらなる活用を図っていく。
	③評価育成制度を通じた教科指導の充実と、公開授業、研究授業の実施	1.評価育成での教科指導力の向上 生徒による授業アンケートや評価育成制度でのPDCAサイクルを活用しながら、教科指導力の向上をめざす。 2.公開授業の実施 年2回の公開授業週間を設定し、互見授業を進める。 3. 研究授業の実施 各教科で研究授業を行い、授業力の向上を図る。	授業アンケート「興味・関心」の項目、「知識・技能」の項目の平均値	1.授業アンケートの「興味・関心」の項目は、R3=3.18、R4=3.20、R5=3.19 であり、さらに生徒の興味・関心を高める工夫をすすめる。「知識・技能」の項目は、R3=3.23、R4=3.25、R5=3.26 と比較的高値であるが、さらなる向上を図る必要がある。 2. 公開授業は、1学期と2学期の各一週間の

				設定を行い、他の教員の授業を見たり、見せたりという互見授業の取組みを行った。 3.研究授業は、数学科、芸術科美術、地歴・公民科、国語科、理科、保健体育科、情報科で実施。 教科指導のさらなる充実に取り組んでいく。																																								
	④各種検定の合格をめざす 実学教育の充実	・検定合格や資格取得に対応する教科の取組みを進める。	各種検定の合格率	R5年度の各合格率は以下のとおり。生徒の意識づけ等さらに進め、合格率をたかめるよう努める。 世界遺産検定 66.4% 秘書検定 58.8% 漢字検定 23.1%																																								
2 全教職員が一体となった学校運営	① 生徒募集力の強化と コースの特色の鮮明化	1.募集広報企画室の活動に対する全教職員の協力体制を強化し、オープンスクール(OS)は全教職員体制で臨む。 2.コース毎に生徒ニーズと学校教育方針を反映した特色づくりを更に強化する。 <b>【普通科】</b> <b>ア.総合キャリアコース</b> 併設大学・短大の学部学科との接続を鮮明化し、特色を中学生に伝える広報を充実する。 <b>イ.幼児教育コース</b> 体験実習等を実施するとともに、併設大学短大の教育学部、幼児教育学科との接続強化を維持する。 <b>ウ.スポーツコース</b> 併設大学経営学部やびわこ成蹊スポーツ大学との密接な接続を維持し、スポーツ系の学びを充実させる。 <b>エ.特進コース</b> 生徒の自己学習力の強化を図り、難関大学に進学できる学力伸長の取組みを強化する。またコースの魅力発信に努め、一定の入学数を確保する。 <b>オ.音楽コース</b> 大阪音楽大学との連携を推進するとともに、普通科の音楽コースとして、音楽への興味・関心をさらに高める取組みを推進する。 <b>カ.看護医療進学コース</b> コース設置3年目を迎え、併設大学の看護学部との連携を充実させながら、進路実現を意識した学力の向上を図る。1期生の進路実現に向け、全力で支援する。 <b>キ.英語コース(令和6年度設置)</b> 英語コースのカリキュラムや取組内容を確定させるとともに、関係機関等と連携し教育内容が充実するよう調整をすすめる。また、コースの魅力発信に努め、一定の入学数を確保する。  <b>【美術科 アート・イラスト・アニメーションコース】</b> 学内外の各種コンペでの上位入賞を今後も維持し、その成果を広く発信し、本学科の充実をアピールする。併設大学芸術学部への内部進学を更に強化する。	1.合格者数  2.コース別入学者数	専願(昨年度) = 419 (415) 併願(同) = 481 (522) 合計(同) = 900 (937) 入学(同) = 485 (494) <table border="1"> <thead> <tr> <th>コース</th> <th>専願</th> <th>併願</th> <th>入学</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特進</td> <td>13</td> <td>5</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>幼教</td> <td>51</td> <td>4</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>総カリ</td> <td>132</td> <td>29</td> <td>161</td> </tr> <tr> <td>スポーツ</td> <td>33</td> <td>2</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>音楽</td> <td>37</td> <td>2</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>看護</td> <td>30</td> <td>0</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td>15</td> <td>1</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>美術</td> <td>108</td> <td>23</td> <td>131</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>419</td> <td>66</td> <td>485</td> </tr> </tbody> </table> <評価> *全体として 485 人の入学者があったことは、募集が好調であると言ってもいい水準だと考える。 *特進、英語については、さらに生徒の満足度等をアピールしながら募集につなげていくことが必要。特に特進については、難関大学合格実績を高めることが重要で、そのための授業の在り方、補講の在り方、放課後の使い方等を含め検討していく。 *大阪府全体でみると、私立専願志願者が増えているが、併願志願者が大幅に減少したうえ、併願戻り率が低下した。 *今後も府内公立高校の定員割れや、入試の前倒し等も検討されていることから、併願受験者・戻り率はさらに減少することが予測され、いかに専願受験者を集めるかが勝負になる。改めて、本校の良さが中学生とその保護者に伝わるよう、取り組んでいく。	コース	専願	併願	入学	特進	13	5	18	幼教	51	4	55	総カリ	132	29	161	スポーツ	33	2	35	音楽	37	2	39	看護	30	0	30	英語	15	1	16	美術	108	23	131	合計	419	66	485
	コース	専願	併願	入学																																								
特進	13	5	18																																									
幼教	51	4	55																																									
総カリ	132	29	161																																									
スポーツ	33	2	35																																									
音楽	37	2	39																																									
看護	30	0	30																																									
英語	15	1	16																																									
美術	108	23	131																																									
合計	419	66	485																																									
② 高大の教員間連携を強化し、内部進学 の拡大と進路指導を充実	1.内部進学率の拡大 併設大学・短大への内部進学者の拡大に向けて、3年生担任団と進路指導部との連携強化を更に進め、内部進学率 60%の達成を目指す。 2.学園内高大連携の拡大 併設大学・短大との学園内高大連携を更に強化し、連携授業の充実に努める。連携授業 100 以上をめざす。 3.併設高校生対象オープンキャンパス(OC)の充実 併設高校 2 年生・3 年生対象OCの充実を図る。 4.学習活動の継続 内部進学が内定後、進学後に必要な学力向上に向けた学習を継続させるための入学前教育を実践する。	1.内部進学率  2.学園内高大連携授業の実施数  3.併設校対象OCの状況	1.内部進学率は、昨年度(55.8%)は特に高かったが、今年度は 50%を割り込んだ(48.1%)。一つには、短大の希望者が減少していること、また一つには、卒業生の数が増加したことも影響している(併設大学・短大への進学者数は一昨年度とほぼ同程度である)。 2.高大連携授業の実績は、R5年度は 141 コマであった。今後も質の高い連携授業が実施できるよう、学園本部、大学、短大と協議を進めていく。なお、昨年度に引き続き、連携授業とは別に、短大の調理コースで「レストラン実習の試食体験」等の取組みを行っていただいた。今後も新たな取組みを模索し、良い取組みを進めていきたい。 3.併設高校生対象のオープンキャンパスは、今年度は、3年生は4月 20 日、2年生は6月 22 日に実施した。R6 年度も同様のタイミングで実施予定。 4.併設大学・短期大学の各学部、各学科と連携し、入学前教育を実施した。																																									

3 生活指導の充実	建学の精神を踏まえた女子教育の充実と、学園のブランド力向上運動と連携した生活指導の充実	1.女子教育の充実 建学の精神を踏まえた伝統ある本校の女子教育に必要な生活指導を徹底する。頭髪指導・服装指導など生活指導に関する教員向け指針を全教職員で共通理解し、全教職員による人権をベースとした生活指導を徹底する。 2.学園のブランド力向上運動 学園の運動と連携して、日々の挨拶運動等を更に進める。生徒会への働きかけも強める。 3.正しいSNSの使い方 近年のスマホ普及に伴い、生徒のSNSの正しい利用に向けて生徒への指導を強化する。ネット上でのトラブルを最小限に減らす取組みを推進する。	1.学校評価「学校生活について先生の指導はよくわかる」の肯定率 2.朝の挨拶運動の状況 3.スマホ関連の取り組み状況	1.「先生の指導はよくわかる」の肯定率は、R3=80%、R4=77%、R5=81%である。生徒の納得感がさらに高まるよう、全教員で取り組みを進める。 2.生活指導部の教員等を中心に、毎朝取り組んだ。生徒会執行部も学園正門前や下足室で挨拶運動を行った。感覚的には挨拶をする生徒が増えてきている。引き続き、取り組みを進める。 3.毎年、新入生とその保護者を対象に講演会を実施している。今年度も、入学者説明会で外部講師を招き、「スマートフォンを安心安全に使うために;SNSの注意点」と題して講演会を実施した。
4 いじめ防止等の対策	いじめ防止の取り組みと、建学の精神に沿った豊かな人権感覚の育成	1.いじめ防止対策 学校制定の「学校いじめ防止基本方針」を全教職員が十分に理解し、建学の精神を踏まえつつ、生徒が互いに他者を理解し、尊重し合える豊かな人権感覚をあらゆる教育活動の中で育む。 2.人権ホームルーム 「年間計画」に基づき生徒いじめアンケートを実施し、いじめ等の未然防止に努め、安全で安心な学校づくりをめざす。また、いじめに対するガイドラインを遵守し、早期対応と組織対応に努める。	1.いじめ件数 2.ホームルームでの人権学習実施状況	1.今年度に認知したいじめ件数は0件。いじめは把握次第、組織的に対応する体制をとっている。 2.人権学習の実施状況は以下のとおり。 1年「爽やかな人間関係を作る」(7月) 2年「映画『チョコレートドーナツ』鑑賞」(9月) 3年「デートDV防止～あなたや友達を加害者にも被害者にもしないために～」(11月)
5 生徒会活動・部活動の活性化	生徒の自主性を育むことをねらいとして、生徒会活動および部活動を活性化	1.生徒会活動の活性化 生徒会としての日常的な活動を積極的にアピールし、文化祭、体育祭、予餞会の各企画委員の活動支援体制の拡充を図る。学年を超えた生徒同士の交流を深め、人間関係を円滑に構築できる力を育てる。 2.部活動の活性化 新入生に運動部、文化部への加入を積極的に推奨し、部活動・同好会の加入率を高め、部活動の活性化を図る。 3.生徒の達成感を高める活動の推奨 運動部以外の文化系部活のコンテストや発表会等の成績発表を充実させ、ボランティア活動を含めて、積極的に生徒の達成感・成就感を育み、生徒の内面を鍛える取り組みを進める。	1.学校評価「文化祭等の学校行事は、みんなで楽しく行われるよう工夫している」の肯定率 2.部活動加入率 3.コンテスト等の表彰歴、各種ボランティア活動状況等	1.「学校行事は楽しく行われるよう工夫している」の項目の肯定率は、R3=83%、R4=84%、R5=85%である。さらに満足度を高めるべく、工夫を凝らす。 2.部活動加入率は、R3=54.5%、R4=49.5%、R5=52.5%と回復してきている。1年生の入部状況(56.4%)もまずまずである。 3.表彰等の主なものは以下のとおり。 *コーラス部 全国大会出場 *チアダンス部 全国大会3度出場 *若年者向けストーカー被害防止啓発ポスター 最優秀賞 *大阪府障がい者スポーツ大会へのボランティア参加 等

#### 4 今後の改善方策

<p><b>1. 学習指導の充実と学力向上</b></p> <p>まずは、「生徒の学力を伸ばす」という意識を全教員が共有できるよう、機会を重ねる。</p> <p>公開授業や研究授業の機会のみならず、普段から授業を通じて生徒の学力を高める取り組みを、学校全体として進めていく。梶田叡一氏によると、学習意欲・意志を高める内発的動機付けとして、「面白い」、「やりがいがある・自信が持てる」、「大事だから」、「しなくてはならないから」の4点があげられており、このことを踏まえて、改めて「わかる授業」、「楽しい授業」、「できた実感できる授業」をめざして不断に授業改善に取り組んでいく。さらに「進路目標」を早期に持たせることも重要であり、進路指導の充実も図りつつ、結果として生徒の学習習慣が定着し、学力が向上するよう取り組む。</p> <p><b>2. グローバル教育・英語教育の充実</b></p> <p>コロナ禍で実施できなかった海外修学旅行や海外研修等が、令和5年度から実施できた。これらの取組みは、参加した生徒にも大変好評であり、貴重な人間的成長の機会ともなっている。また、このコロナ禍で培ったノウハウをもとに、オンライン等も活用しながら、ハイブリッドな国際交流の取組みを進めていく。また、ユネスコスクールとしての活動や、本校生徒会中心のMOTTAINAI活動をさらに充実させたい。特にユネスコスクールの活動は、他校の取組等も参考にしながら進めることについて、検討する。</p> <p>こうした取り組みを通じて、生徒にグローバル化が進む社会への参画意識を高めるとともに、コミュニケーション・ツールとしての英語への興味を高めていく。</p> <p>なお、令和6年度入学生から新たに「英語コース」を新設し、これらの取り組みをさらに鮮明化させる。</p> <p><b>3. コースの教育内容の一層の充実</b></p> <p>本校の最大の特色は、生徒のニーズに応える2学科7コース(令和6年度からは8コース)の設定である。これまでそれぞれのコースで特色ある教育活動を充実させてきており、その内容は、誰に対しても誇れるものとなっていると自負している。今後も工夫に工夫を重ね、各コースの活動を一層充実させて、生徒・保護者の満足度を高めるとともに、取り組み内容を各種ツールを通じて発信し、より多くの生徒が本校に入学することを希望するよう、募集活動を強化していく。</p>
---